



第4回 筑波大学 技術職員 交流会

令和
4年 3月9日(水)

分科会 4. 13:10 - 13:55

新任技術職員の紹介

令和2・3年度に11名の技術職員が着任しました。新任技術職員は、コロナ禍によるオンライン研修やリモートワークの導入により、既存職員や同期職員との交流の機会が少ないのが現状です。そうした中、昨年7月に技術職員を対象に実施した第4回技術職員交流会アンケートにおいて、分科会で新任職員を紹介したいという声がよせられました。本分科会は、既存職員との対話形式で新任職員の紹介を行うことで、既存職員と新任職員との親睦や相互理解を深めることを目的としています。

分科会 5. 14:10 - 15:05

皆さんの業務を教えてください - 学内小規模見学会 実施報告 -

技術職員としての自分の業務。いざ誰かに紹介するとなると、なかなかとりまとめるの難しいところですし、発表するにしてもニーズがあるかどうかが分からなくてちょっと腰が引けます。とはいえ他の部局・他の部署ではどんな風に業務を進めているか、参考にしたいし、できれば情報共有や、ざっくばらんに困りごとの相談をしてみたいところです。今回はそんなきっかけとなるように、少人数での見学会を企画しました。学内4カ所、工作室やセンター、教育支援の現場2カ所とバラエティ豊かな受け入れ先で、対面およびオンラインで12月から1月にかけて複数回開催された見学会の様子を紹介します。

分科会 6. 15:20 - 15:50

職場巡視意見交換会 実施報告

本学では快適な職場環境を形成することを目的に、技術職員が中心となって職場巡視が行われています。総合大学として様々な研究・教育のための施設がある中で部局ごとに実施されています。技術職員向けに実施したアンケートでは他部署との意見交換や情報共有を望む声が寄せられました。これを受けて技術職員交流会ではオンラインにて「職場巡視意見交換会」を企画しました。この分科会では意見交換会で共有された、巡視にまつわる悩みどころや、安全対策、部局ごとの巡視事例について紹介します。

分科会 7. 16:05 - 17:05

技術職員の組織を考える

全学技術委員会技術職員連絡会では本年度、他機関の技術職員の組織について調査、研究を実施してきました。そこで、その結果について技術職員間で情報共有するべく分科会で発表するものです。第1部は第21回令和2年度高エネルギー加速器研究機構技術職員シンポジウムの報告資料等から5機関の組織について調査した結果を簡潔にまとめた資料により報告します。第2部は近隣機関であり、技術部を組織したものの法人化を契機に技術部を解散した高エネルギー加速器研究機構から講師をお招きしご講演いただきます。

閉会式 17:05 - 17:15

開会式 09:00 - 09:10

分科会 1. 09:10 - 10:05

夏休み自由研究お助け隊2021 オンライン開催報告

夏休み自由研究お助け隊は本学の社会貢献事業として、技術職員によって企画運営されています。本分科会では夏休み自由研究お助け隊2021の実施報告や、当イベント初のオンライン開催となった経緯や例年との相違点と言った運営面の報告、また今年度のワークショップ担当者から、ワークショップのオンライン化のために工夫した点や苦労した点、イベント当日の感想といった、オンライン化の実体験に基づく報告を行います。

分科会 2. 10:20 - 10:50

ハリサンショウウニの継代飼育法の確立

棘皮動物門に属するウニ類は、実験生物学的利点により古くから発生学・細胞学等のモデル生物として活用されてきました。しかしながら、バフンウニをはじめ、現在材料になっている多くのウニ類は生殖期が年に1回であり、また卵から性成熟までに1年以上かかるため、継続的な実験を突き詰めることは極めて困難です。これまで、発表者らはハリサンショウウニの継代飼育を試みており、本種は卵から性成熟までの期間が約半年であることを明らかにし、年中配偶子を保持させることにも成功しました。このように非常に優れた生物材料になる可能性を持つ本種において、安定した継代飼育法の開発を行ったため紹介します。

分科会 3. 11:05 - 11:50

特別仕様ドレッジの開発・製作

ドレッジとは船からワイヤーで海底まで降ろし、海底を曳いて生物を採集する採集器具の1つであり、下田臨海実験センターでも研究調査船「つくばII」を用いて使用されています。市販のドレッジもありますが、臨海施設によって形状は様々で当センターでも以前より特徴的な形のドレッジを使用しています。第1回技術職員交流会が開催された際に、新しいドレッジの作製について相談し、研究基盤総合センターとの共同によるドレッジ作製の構想に至りました。作製されたドレッジの形状は以前のものを元にしていますが、生物が入る網の大きさを交換できる仕組みを追加しました。今回の発表では、作製されたドレッジの仕様や運用について紹介します。